

（キリトリ）

9 6 9 3 1 2 3

110円切手をお貼り下さい。

猪苗代町絆づくり実行委員会行

福島県耶麻郡猪苗代町字鶴田141-1
猪苗代町体験交流館内

応募者記入欄

ふりがな			
氏 名			
住 所	〒	—	
	都道 府県	郡 市区	
電 話 番 号	()	—	
	()	—	

余白には記入しないでください。

（キリトリ）

世界的医学者

野口英世の
ふるさと
猪苗代

野口英世は一八七六年（明治九）福島県猪苗代湖畔の貧農の家に生まれました。わずか一歳半のとき、英世は、ろりて大火傷を負いますが、幼い英世は障がいを持ちながらも山に野に、湖畔にのびのびと遊び、母の大きな愛にささえられ、やがて医学の道にすすみます。一九〇〇年明治三十三、英世は単身渡米。アメリカを拠点にヨーロッパ中南米アフリカで多くの研究成果をあげました。母からの手紙に涙し、その手紙を何時も胸にいだき故郷に思いを馳せながら研究に没頭していました。その後、友人から届いた老いた母の写真に心を打たれ帰心矢の如く十五年ぶりにたまた一度の帰国が実現します。母はそれから三年後、母らぬ人となりました。



第24回
心の手紙
コンテスト

全国から作品を募集
入賞総数40作品以上

母から子への 手紙

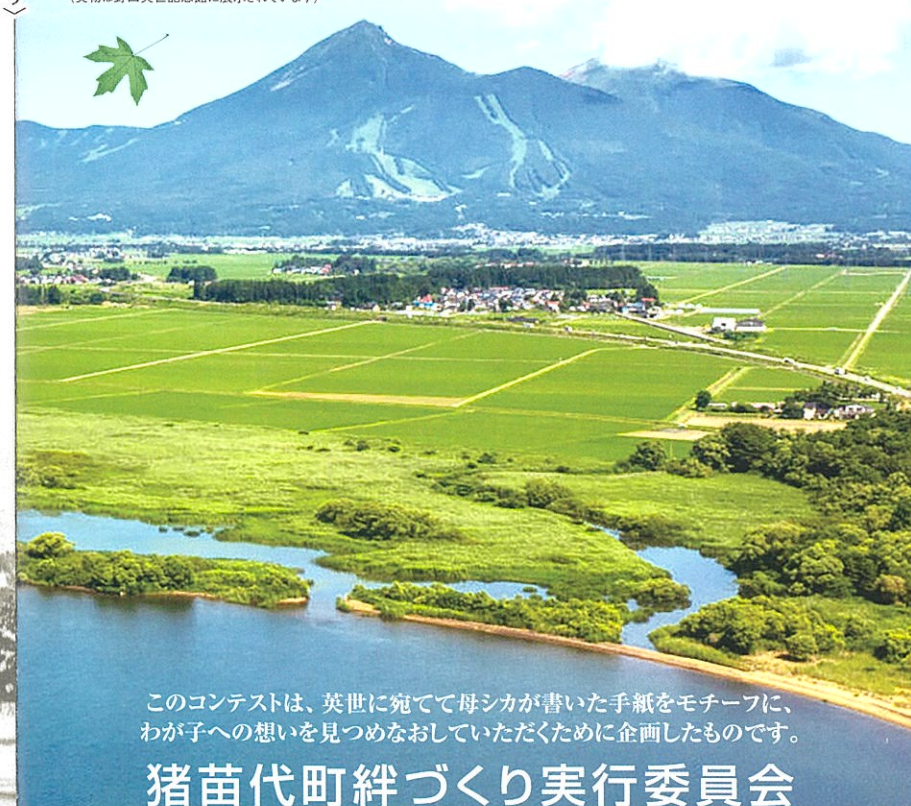


あなたに伝えたい思いがある

猪苗代町で生まれた
世界的な医学者
野口英世

母シカが英世に宛てた
一通の手紙は、たどたどしい
文章であったが、英世を想う
母の愛であふれていた。

母シカ自筆の手紙
母シカ自筆の手紙では、現存する唯一のものです。英世の安否を案じ、帰国を願う赤裸々な文章からは、子を想う母の愛が感じられ、今でも人々を惹きつけます。（実物は野口英世記念館に展示されています）



このコンテストは、英世に宛てて母シカが書いた手紙をモチーフに、わが子への想いを見つめなおしていただくために企画したものです。

猪苗代町絆づくり実行委員会